

# 先生おしえて!!

vol.008

## 秋から冬にかけての インフルエンザ対策



内科 吉村大輔 (感染対策委員会)

今年4月より北米やメキシコで発生したブタ由来のA型インフルエンザウイルスH1N1によるヒト感染症は、6月11日にはWHOにより世界的流行を意味するフェーズ6(パンデミック)が宣言され、日本、そして福岡でも多数の感染者が出たことは記憶に新しいところです。この原稿を書いている7月上旬現在も南半球を中心に感染者は増加を続けるなか、この新しいインフルエンザの特徴が明らかになりつつあります。

### ▼▼新型インフルエンザ(A型インフルエンザウイルスH1N1)の特徴

現在多くの国や地域で確認されていることは、(1)患者数は若年者(10〜20代)が最も多く、ここ数年間のイン

### ▼▼もしインフルエンザにかかったら

もしインフルエンザに感染したときは、しっかりと自宅療養できる準備をしておくことです。厚生労働省では6月19日に医療の確保などに関する新たな運用指針を発表しました。簡潔には、インフルエンザ診療を広くかかりつけ医や一般医療機関でもおこなない、重症者を除き原則として自宅療養をすすめる内容となっています。療養にあたっては、(1)充分に休息を取ること、(2)水分をしっかりと摂ること、(3)家族を含め他の人との接触を最小限にすること、などが重要です。また療養の世話をすることが家族においては、(1)持病をお持ちの方や妊婦は世話をしないこと、(2)息苦しい、意識がはっきりしない、手足の指先が紫色になつてきた、など重症化のサインがあれば相談する、(3)ご自身のタミフル予防内服について相談する、などかかりつけ医との連携がこれまでに以上に大切となります。

### ▼▼最後に

当院職員一同も病院内での感染拡大を防止するべく、1階の病院入り口に手指消毒用のアルコールを設置し、流行時のマスク着用、呼吸器症状を有する発熱患者さんの専用待合いの設置などをおこなっています。また新型インフルエンザにかかって自宅療養する際に参考にしていたいただくために簡単なパンフレットを作成しました。必要な方は窓口でお申しつけ下さい。

フルエンザワクチン接種の効果はない、(2)65歳以上の感染者は少なく、過去のインフルエンザによる免疫(交叉免疫)のためと思われる、(3)重症例は少ないが、その多くは慢性の呼吸器・心臓・腎臓・代謝疾患などを有する。また妊婦も重症化しやすい、(4)タミフルやリレンザが有効である、などです。しかしながらまだ歴史の浅いウイルスであり、今後細かい遺伝子変異を重ねながらより重症になる可能性については多くの専門家が指摘するところです。

### ▼インフルエンザ対策は?

日本でもこの秋・冬にかけて再び大きな流行が予想され、時節柄、これまでの季節性インフルエンザとの区別は不可能となります。ワクチンの十分な確保が間に合わないと考えられる現在、私たちができることの第一は正しい衛生習慣を身につけることです。咳やくしゃみをするときはティッシュなどで口を覆う咳エチケット、流行時には不要不急の外出や人混みを控えること、手洗いやうがい、励行など、普段の習慣を今一度見直して頂きたいと考えます。

第二には、お近くのかかりつけの先生とつながりを持つことをおすすめします。慢性の呼吸器、心臓、糖尿病などをお持ちのご高齢の方や小さなお子様をお育ての方は、かかりつけの先生と相談し、ワクチンで予防できる他の感染症について今のうちに適切な予防接種を受けておくことは重要です。

5月の国内発生当初は感染者のプライバシーが暴かれ、特定の地域や外国の旅行者・居住者に不利益が発生するなど、多くの混乱がみられました。元来インフルエンザは誰もが感染する可能性がある病気であり、今回の新型インフルエンザもこれから数年を経て季節性インフルエンザの仲間となるウイルスです。病気がかかった人に対するいたわりの気持ちと、お互いに感染を拡大させない助け合いの気持ちを忘れずにいたいです。

## 新型インフルエンザ電話相談窓口

診療可能な医療機関の紹介および  
自宅療養者の相談対応をします。

対応時間	連絡先	電話番号
9時から17時(平日)	東保健所	092-645-1078
	博多保健所	092-419-1091
	中央保健所	092-761-7328
	南保健所	092-559-5116
	城南保健所	092-832-5210
	早良保健所	092-851-6012
	西保健所	092-895-7073

※福岡市外にお住まいの方は、住所地の保健所にお問い合わせ下さい。